

【取組内容⑤】 デジタル社会を生き抜くリテラシーを持つ児童を育成するために2

デジタル・シティズンシップ教育の授業公開

デジタル・シティズンシップ教育では、「傍観者（バイスタンダー）」にならず、差別に立ち向かい、具体的な行動ができる「差別に立ち向かう人（アップスタンダー）」を育てることを目的として、低・中・高学年において授業公開を実施しました。



2年生の授業では、写真を使って活動を紹介するときに、「笑顔の3（スリー）ステップ」の「一休み（立ち止まる）」「考える」「尋ねる」を大切に、みんなが笑顔になるように友だちの気持ちを考えて写真などを使うようにしていこうと、考えを深めました。



4年生の授業では、インターネット上で情報発信する際に、画面の向こう側にいる相手の気持ちを考えたり、発信内容について立ち止まって考えたりするなど、情報をより良く扱うことの大切さについて考え、人権侵害に気付き行動できるようになりたいとの考えを深めました。

5年生の授業では、ネットいじめの課題解決に向けて話し合いを深め、自分の取るべき行動について具体的に考え、差別や偏見を許さず行動しようとの思いを深めていました。「アップスタンダー」として、自信を持って行動できるように、今後もさらに心を育てていきたいと思います。

